

令和元年九月一日発行（毎月一回）
書象 第六十七巻 第九号 通巻七六六号

書象

日本書道芸術協会
SHO JAPAN
設立1945年
代表理事 山本 善三郎
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
電話 03-5561-1111
FAX 03-5561-1112
E-MAIL sho@sho-japan.org



日本書道芸術協会

2019-9



印刷物の裏を使った張廉卿の書
紙は粗末でも、運筆には少しのゆるみもない

もう半世紀も前のことです。伊福部隆彦という評論家が、その著『書と現代』（木耳社）の中で、上條信山先生の作品を「精神の書」と評したことに対し、先生が大いに意気に感じられ、自己の書法のあり方を再認識されるといういきさつがありました。その論旨は、張廉卿（裕釗）、宮島詠士（大八）そして信山において、作品の表現はそれぞれに自我が発揮されたものだが、根底にある精神はゆるぎなく一貫しているというものであったと思います。

それ以来、上條先生は先師を敬う心を一層強くされ、表面的な表現に留まらず、張廉卿と宮島詠士において、いかなる精神的な情誼が交わされ継承がなされたか、その真相の解明に情熱を注がれるようになっていきました。

では、その「精神」とは何かということになります。これを具体的に古典で示すならば、集字聖教序、張猛龍碑、それに九成宮醜泉銘であり、書人というならば王羲之、歐陽詢、それに顔真卿になるでしょう。廉卿、詠士、信山の三家を碑学派として理解している人には、帖学派の祖になる王羲之が入るのは抵抗があるかもしれませんが、事実として廉卿、詠士ともに終生王羲之から離れたことはなく、同時に欧陽詢を究明し、顔真卿を信奉しました。上條先生の多彩な表現力も、これらの古典精神を徹底して踏まえることによって成し遂げられたものでした。

一方、心のあり方からいうならば、詠士の言によれば、廉卿は「振俗」の語を重んじたということです。これは俗念を振り切るの意で、脱俗、絶俗に通じます。これの逆の意が「俗に通ず」、また「媚を売る」になります。上條先生の作品は、常に清新であり、格調高く、凜としてあたりを払うものがありました。

「書は品格がなくはならない」。これは上條信山先生が常に私たちを戒められた言葉で、私たち書象会員が継承していかなくてはならない、書家としての定めであり、きずなであるといえるでしょう。この書法精神を全国書壇においていよいよ発揮し、書象会員であることの誇りを讃え合っていこうではありませんか。



歳々人移り改まる

9月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

楷書臨書規定【臨規】
(師範・準師範・段位)

化度寺碑

上條信山先生書



悟。聞法(海之)微妙。毛

9月20日必着
出品券を貼付

悟聞法微妙毛

・「不即不離」(即かず離れず)の原理を意識して書きたい。



・二文字の中心を通して伸びやかに書きたい。

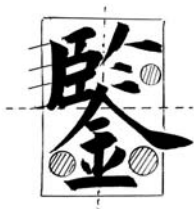
風：構えのソリに留意

する。二画目の折れは突き返すように書き、伸び伸びと。横画の方向や空間も気をつけたい。



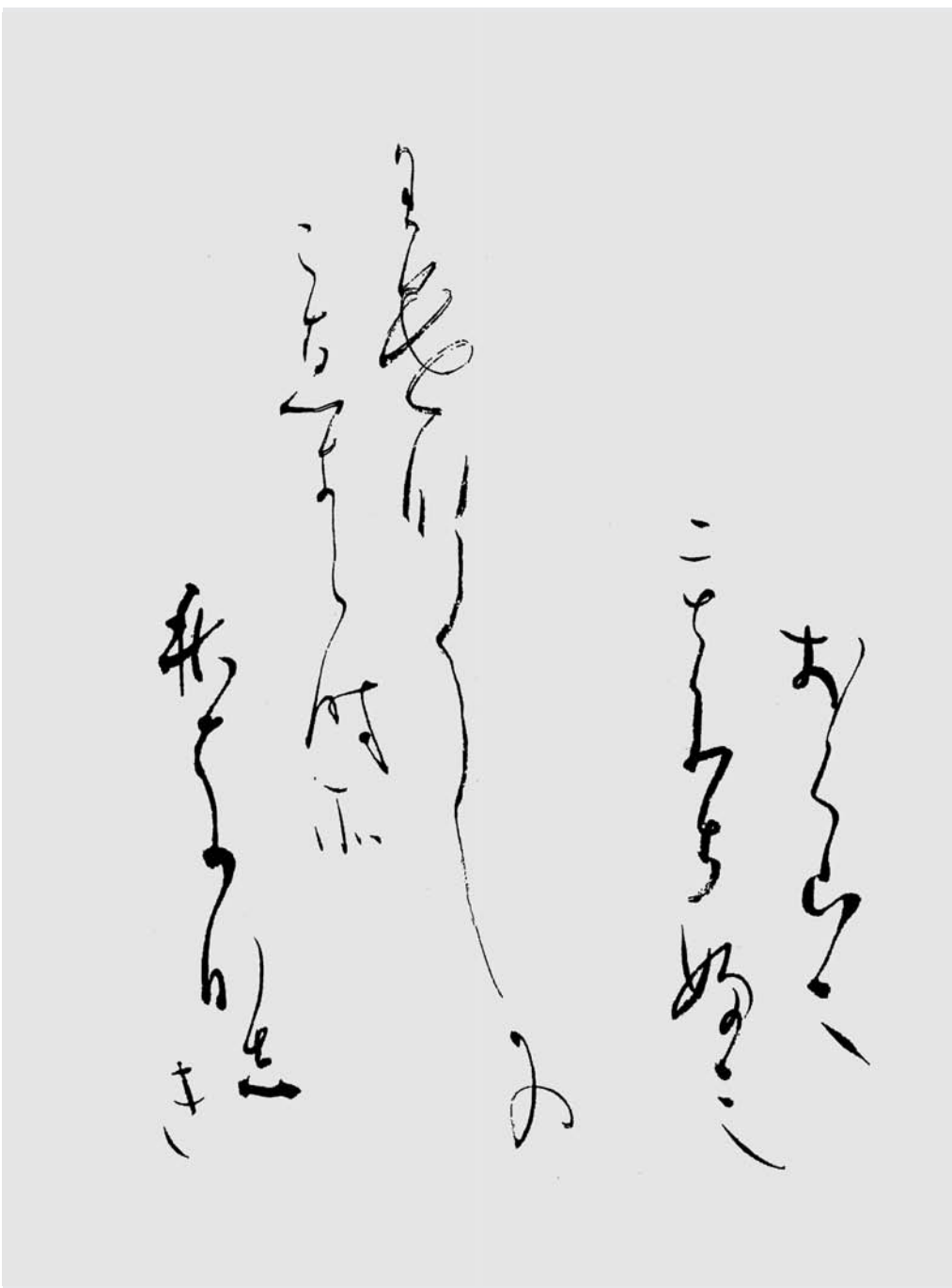
鑿：上部と下部を調和

よく組み合わせた。横画は右上りに統一し、最終画を水平にすることで安定させる。



仮名規定【仮規】 (師範・準師範・段位)

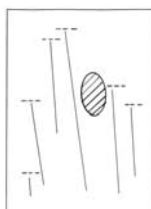
上條信山先生書



おく山に(二)も(毛)みぢふ(婦)み(三)わ(王)け(遣)な(那)くしか(可)の
 こゑ(恵)き(支)く時ぞ(所)秋は(者)か(可)な(那)し(志)き
 (猿丸大夫)

9月20日必着
 出品券を貼付

- ・全体構成は左図参照。書き出しで墨をつけた後は五行目で墨継ぎを行い、潤渴の美しさを見せたい。
- ・各行の高さと傾きに留意して作品をまとめる。



「も(毛)みぢ」

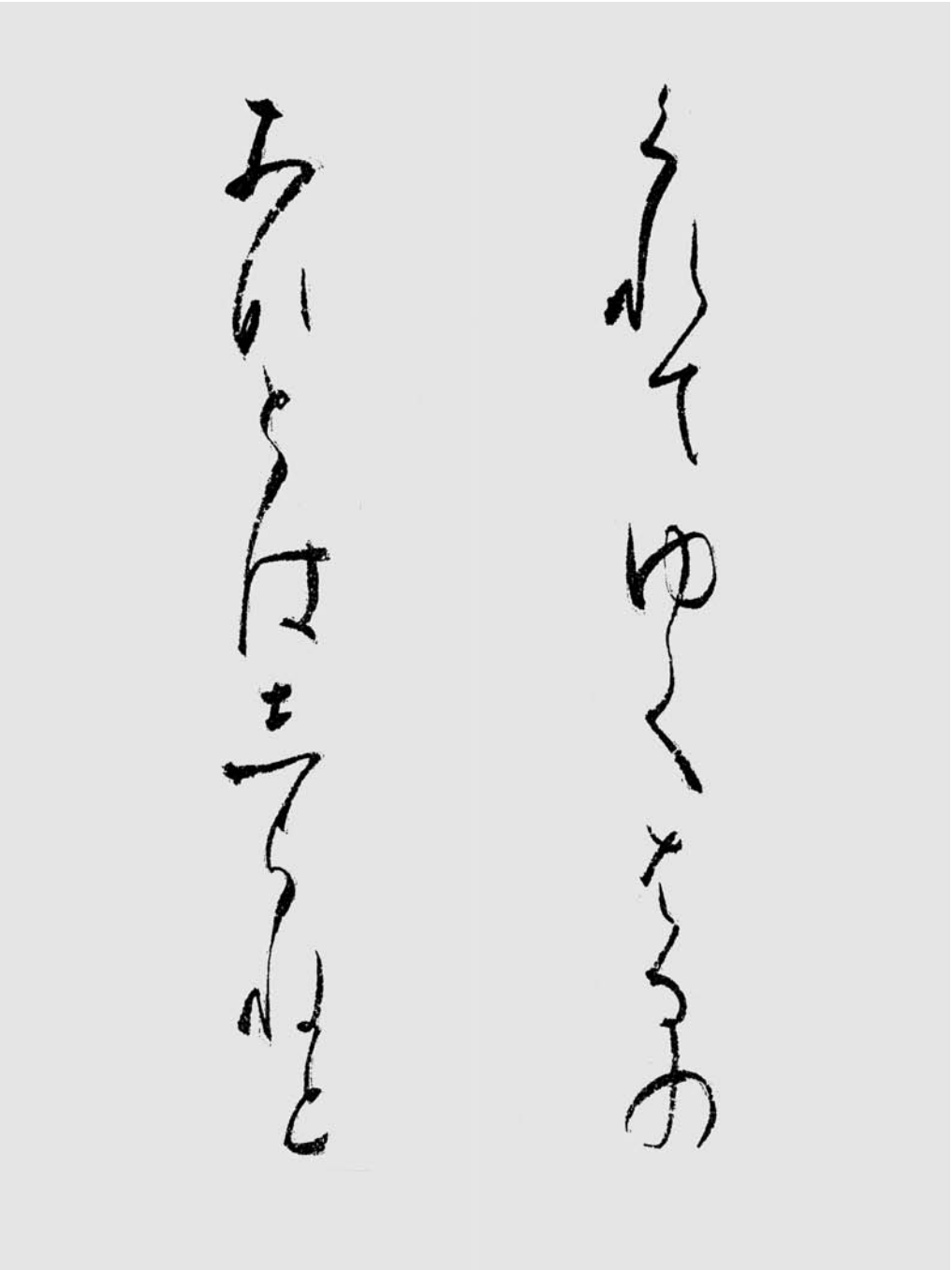
こゑ

「わ(王)け(遣)な(那)」

秋

「こゑ(恵)き(支)」

く



く(久)れてゆくは(者)るのみな(那)とは
し(志)らねど

・中心を揃えることは
かりでなく、右サイ
ドを揃えて流れを作
る場合がある。

「れて」の右サイドを
揃える。

「ゆく」の右サイドを
揃える。

「は(者)るの」は中
心を揃える。

「みな(那)」は中心
も右サイドも揃える。

「ねと」は右サイドを
揃える。



研究【研究】 「張猛龍碑」 臨書

积文 正に（反る。）野畔 耕を譲り、林（中）



杉山暁雲先生書

淵妙（集字）



山口啓山先生書



今月のポイント 逆筆を強く当てる。字中の空間に留意したい。

※どちらか一体を出品してください。



9月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します



微涼満寺の秋（高青邱句）

条幅随意【条随】

内藤望山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付



何れの日にか湘浜に帰って
君と還た旧好せむ（石濤句）

- ・「微」の中央は「山」と「耳」
- ・「涼」の「口」は「日」を使っている
- ・「涼」と「満」のサンズイに若干の変化をつける
- ・「秋」は偏と旁を反対にした形

- ・漢字とひらがなが調和するべく、いずれも太く書くこと。
- ・中心線一貫を心掛けて力強く表現する。
- ・「湘浜」「帰」「還」はP14参照。

散る木の葉

中学一年規定 【学毛】

細中高山先生書

勉元 強氣に

中学二・三年規定 【学毛】

二瓶嶽風先生書



小学五年規定 【学毛】

露崎玄峯先生書



小学六年規定 【学毛】

中村彌山先生書

「涼」は『学年別漢字配当表』にありませんが、「涼ずいしい」「涼ずいむ」と使われます。

赤子

小学三年規定 【学毛】

田中珠光先生書

合向

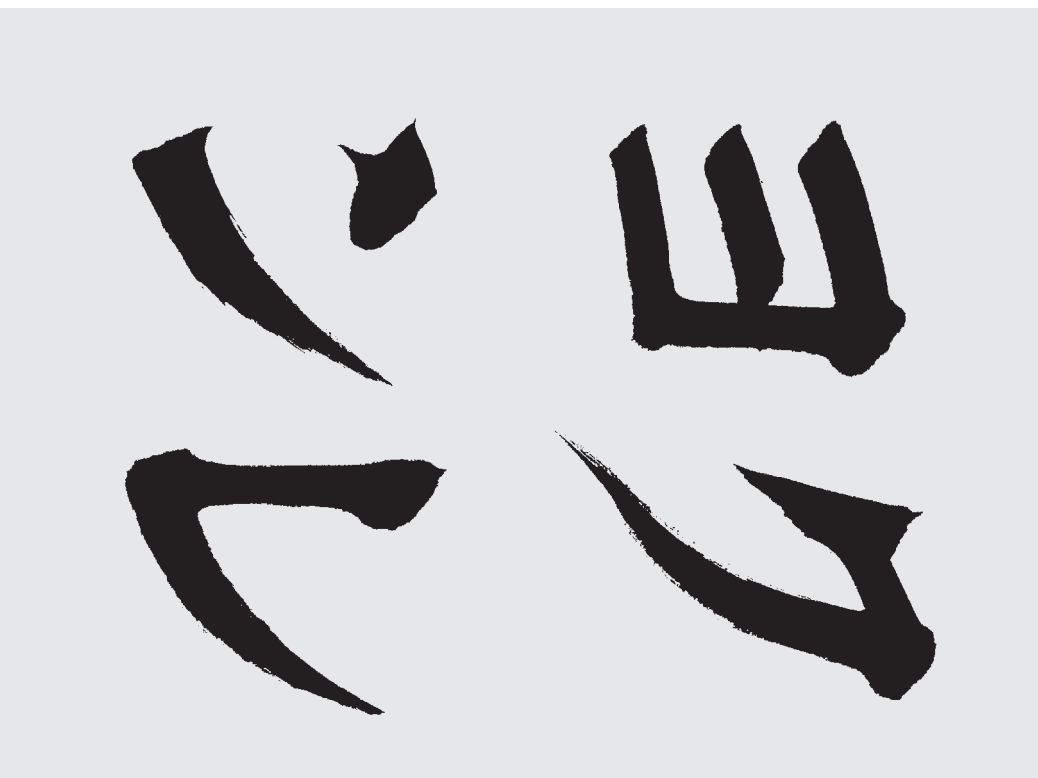
小学四年規定 【学毛】

荻田光山先生書



小学一年規定 【学毛】

竹内藍山先生書



小学二年規定 【学毛】

樋口玄山先生書

硬筆規定

一般規定【一硬】(師範・準師範・段位)

上條 信山 先生 書

結婚とは夫婦二人が生涯をかけて協同制作する芸術であるからその作品を傑作にするには二人がたゆまぬ努力協力せねばならぬ(那)い。

結婚とは夫婦二人が生涯をかけて協同制作する芸術であるからその作品を傑作にするには二人がたゆまぬ努力協力せねばならぬ(那)い。

一般規定【一硬】(級位)

二瓶 嶽風 先生 書

どうせ分かってもらえない。人間ってこんなものと思ひ込んでいる人の強さ、というか。五本寛之のことば

中学規定【学硬】

杉山 暁雲 先生 書

文化祭の準備が始まった。書道部は夏やすみ中に制作した作品に解説を付けて展示する。

支部 学年
氏名

小・中学生随意課題【学随】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。出品券を貼付して下さい。

小 一・二年 学	月	小 三・四年 学	食
小 五・六年 学	小説	中 学	尊敬

手本解説

・基本 「歳々人移改」は左図参照。

歳々人移改

・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)「婚」「制作」「傑」は左図参照。

婚制他傑

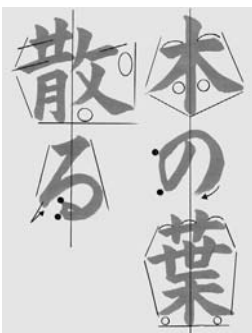
・条幅随意「湘浜」「帰」「還」は左図参照。

湘浜帰還

学生部規定



中学二・三年



中学一年

「元」の儿は二画目と軽く接し、下部を揃えて安定させる。「氣」の横画は右上がり等で間隔に書く。「勉」の八画目曲がりの横部は右へ長めに。「強」は偏と旁の幅を意識し、空間が狭くならないように。

「木」は左右の払いの角度に注意する。「の」は中心線上から書き始める。「葉」は四画目を最大幅にし、中心を意識する。「散」は横画の長さの違いに注意し、最終画は伸びやかに払う。

知識には限りがある。想像
する力は世界をも包みこむ。

アインシュタイン

名前 支部 年 級段

二学期も早起きをして、
きそく正しい生活ですご
しましよう。

しましよう。

名前 支部 年 級段

ぞ	た	ね			
く	し	こ			
で	の	の			
す	だ	タ			
		マ			
なまえ		は			
	支部	な			
	年	か			
		わ			
			だん		
			きゆう		

※出品券を貼付
して下さい。

一般（師範・準師範・段位・一般（級位）・中学生はペン使用の
こと（中学生は鉛筆も可）。小学生は鉛筆使用のこと。
作品の大きさを下りたて18 cmよこ7 cm小一・二課題↓2.1 cmのマス目
の紙を使用する。小三・四・五・六課題↓2.1 cm巾の罫線を引く。



小学六年

「秋」は左右の払いの長短・角度に注意
する。「風」は虫が下へ出ないように書
く。「涼」はさんずいの幅を細めに書き
京とのバランスを図る。「し」は中心よ
り左側から書き始める。



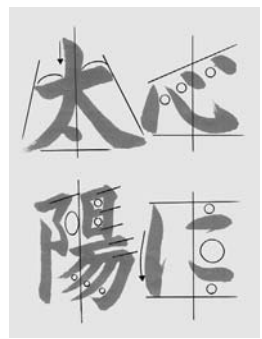
小学四年

「向」の二・三画目の縦画はやや内側に
向ける。「き」の三画目はやや反らせて
横画との交わり方に注意する。「合」は
左右の払いを伸びやかに書く。「う」は
縦長の字形と中心線を意識して書く。



小学二年

「ク」は一・二画目の終筆の方向に注意
して払う。「レ」の縦画は中心より左側
に書く。「ヨ」の横画はやや右上がりに
等間隔に書く。「ン」の二画目は一画目
の真下から書き出す。



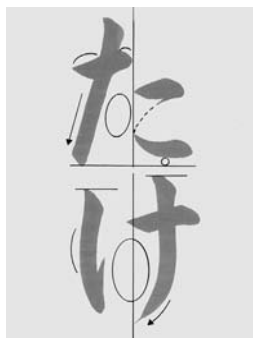
小学五年

「心」の一・二画目の下辺は水平に。「に」
は空間が狭くならないように気をつける。
「太」の二画目は横画と交わるまでは垂
直に。「陽」は偏旁の大小、組み合わせ
に注意し、懐が狭くならないように。



小学三年

「赤」は三角目を最大幅にし、下部の点
画は等間隔にする。「と」は二画目の始
終筆の位置関係に注意。「ん」は折れの
角度や方向に気をつける。「ほ」は二本
の横画をほぼ同じ長さで書く。



小学一年

「た」は一・二画目の交わる位置と二画
目の長さや角度に注意する。「け」は一
画目と三角目の始筆の位置に気をつけ、
最後は伸びやかに払う。

古典研究シリーズ ④35 【古典】

曹そう全ぜん碑ひ

後漢・中平二年（一八五年）

今月のテーマ

写実的臨書

中字（六字）…二回目

書き方

- ①文字数は六字。左記の中より六文字選んで書いて下さい。
- ②落款を入れて下さい。
- ③作品の表左下に、支部名と氏名、又は号を鉛筆で記入して下さい。古典研究の出品券を貼付して下さい。（編集部）



室。世宗廓土序竟。子孫遷于雍州之郊。分止右扶風。或在安定。或處武都。

ポイント

- ・横画の水平・平行・等分割を意識して書く。
- ・波磔をのびのびと払う。
- ・半紙六文字の文字構成を考える。

文字解説



参考手本

上條信山書法（尚学図書）より



図録で見ると 信山先生の書

「上條信山近作展（一九六七年）」その5

⑱ 六言句対聯（昭和四十三年）

この作品の縦画の角度に注視すると、ほとんどの画が左傾していることが分かる。文字の姿勢も左へ傾いている。まさに信山書法の根底は張猛龍碑にあることを示す作品である。

この作品のような形式の作品は書象会では少ないが、信山流中字楷書には合っていると思う。研究して作品づくりをしてほしいと思う。

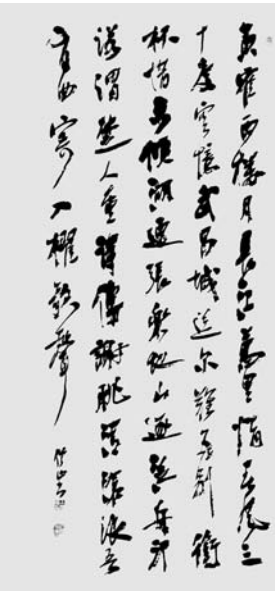
⑲ 六言句対聯（昭和四十三年）



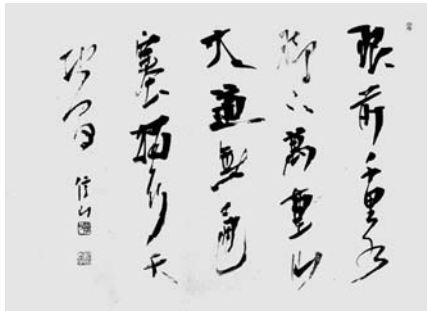
⑳ 豪気突北斗（昭和四十三年）



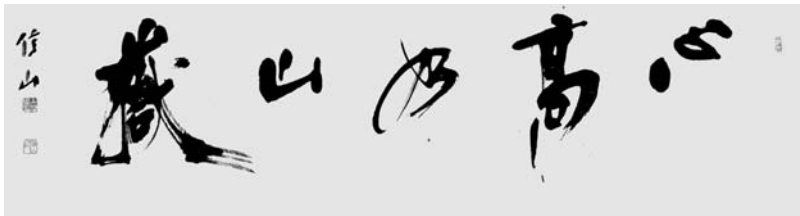
㉑ 唐詩「送儲巖之武昌」



㉒ 眼前千里水脚下萬重山
大道無通塞獨行天地間
（昭和四十三年）



㉓ 心高如山嶽



⑱ 豪気突北斗（昭和四十三年）

書かれた五文字の形状は極めて縦長である。横幅の二倍以上に及ぶ長さである。このような字形は古典にはない。信山先生の臨書の理論「表現的臨書」の形に主観を加える方法によれば創り出せる形である。古典の形をデフォルメあるいはデザインする意志で書いてみたものである。その学習から信山流を書くとき新しい造形が生まれると思う。

⑳ 唐詩「送儲巖之武昌」（昭和四十三年）

動きよく、流れよく、字形もすばらしい作品である。この作品から文字の字幅に注目してほしい。左右が接近している形、離れている形、上は広いが下は締まっている字など多彩な造形である。狭い字の中にも余白を入れてある。広い字であっても解放される力のみでなく引き寄せる力も残している。信山書法を書いて緊張感が出すぎる傾向がある人は、この作品を参考にしてほしい。

㉑ 眼前千里水…（昭和四十三年）

各行の向きは垂直ではなく、右下へ少しずれて下りて来ている。信山書法は横画が右上りとなる。右上がりの横画に対応する縦画は左傾となり、字の姿勢も行の立て方も左傾が合うのである。右下へずらしながらの行立てを試みてほしい。

㉒ 心高如山嶽

この作品の構成は文字の頭を揃えて、下部は余白の広さと余白の形を面白く表現している。普通は五文字の中心を揃えるが、信山先生独創の作品表現である。文字の背丈を変え、余白の姿が変わる面白さを体験してほしいと思う。

（理事長 市澤静山）

第58回

書象展

会期 六月十三日(木)～二十三日(日)
会場 国立新美術館二階C・D展示室



壁面を飾る作品群、今年も力作が揃う（第1室）



「第50回全国学生書道展」作品展示



市澤静山先生より俊英選抜五人展メンバーの紹介



高田墨山先生令夫人



特別展示 高田墨山先生遺墨展コーナー

授賞式

期 日 六月二十三日(日)
場 国立新美術館二階展示室



「奨励賞」受賞の皆さん



「桜花賞」受賞の皆さん



なごやかな表彰式



「書象賞」受賞の皆さん



第49回全国学生書道展表彰式会場（3階講堂）

第58回展を終えて

展覧会部部长 荻田光山

個人的なことで恐縮ですが、担当責任者として四年目となり、マンネリや見落としがないことを祈りながら、初めて担当した時のような気持ちを忘れないよう心がけました。

おかげさまで、今年も約七千五百人の参観者を得て、第五十八回書象展を盛会裡に終えることができました。これもひとえに出品者をはじめとする多くの皆様のおかげと心から感謝申し上げます。

特に、今年是将来を見据え、いかに書を学ぶ人を育て、広げていくかを考え、併催している全国学生書道展の表彰式を実施し、優秀作品の展示も会場に入っすぐの場所に変更してみました。予想を超える児童生徒、保護者、指導者にお集まりいただき、こうした方がよかったと反省することはありますが、盛大に実施できたことは次につながるものになったかと考えています。

また、子供のためのワークショップ「うちわに書いてみよう」の継続実施、支部長講習会では、「水書用筆等を使用した書写指導」を民間団体として初めて実施させていただきました。

さらに、副理事長によるギャラリートーク、学生展講習会、実技講習、五人展インタビュー、読売展添削会は継続して実施しました。もりだくさんの行事でしたが、各催しともに多くの参会者を得ることができました。

そして、何より高田墨山先生の遺墨展示、急逝された虎井晁鐘先生の遺作は、多くの方々が信山流の生粋の有り様をあらためて実感し、自身の書作活動に大きな影響があったものと考えています。

来年は、六十回記念展前の新しい企画を実施する予定になっており、係としては責任重大ですが、皆様からのご期待とご支援に応えられるよう、更に研鑽を積んで努めてまいります。

書壇から来場の主な先生方



日展監事 土橋靖子先生（右）



書道評論家 西嶋慎一様



日展理事 新井光風先生（左）



日展特別会員 高木厚人先生（右）



日展特別会員 石飛博光先生（中央）



日展特別会員 清水透石先生（右）



日展会員 牛窪梧十先生（左）



日展特別会員 一色白泉先生（左）



日展特別会員 海野濤山先生（右）



近代書道研究所 所長
青山慶示様（右から2人目）



読売新聞社編集委員
菅原教夫様（中央）



日展会員 楢崎華祥先生（左）

令和元年度支部長講習会

「小学校低学年における水書用筆の指導研修会」

期 日 六月十六日(日)
会 場 国立新美術館 三階講堂

令和最初の書家展会期中である六月十八日、国立新美術館三階講堂において、支部長講習会「小学校低学年における水書用筆の指導研修会」が行われた。来年度より、新しい「小学校学習指導要領」の全面实施となり、道徳や英語が世間では話題となっているが、国語科における書写の指導でも、小学校一、二年生から、水書用筆等を使用した運筆指導が加わることとなった。

今回は「書写・書道教育推進協議会」の御支援を受け、学校以外で行われる初めての講習会であった。推進協議会の中心を担って

られる田中節山先生、荻田光山先生、小室墨汀先生が講師を務められた。

前半は映像教材を使用した座学、後半は実際に水書用筆を使用した指導方法を学んだ。書写における水書指導は硬筆の運筆指導のためである。そのため、水書用筆の軸の形は鉛筆に近い六角形となっており、穂の長さも小筆よりも短い専用のもとなっている。具体的な指導では、児童の視点から、主体的な取り組みを促すような工夫がみられた。文字の

点画を書くのではなく、横線、波線、イラストなど、線遊びとして様々な線を引くことで、楽しみながら学べる工夫が施されている。受講している我々大人でも楽しめるものだった。

書家会は、書道教室にて児童・生徒を指導している会員は勿論、教員として実際に学校現場で教鞭を執っている会員も多いので、本研修は本会にとって大変有意義なものとなった。この講習で学んだことを現場で実践し、文字を書く大切さ、楽しさを伝えていきたい。

(吉田節城記)



田中節山先生のお話



配布された資料



映像教材の座学の様子



真剣にとりくむ参加者の皆さん

実技講習会

「実用書講習会に参加して」

期 日 六月十九日(水)
会 場 国立新美術館 三階研修室

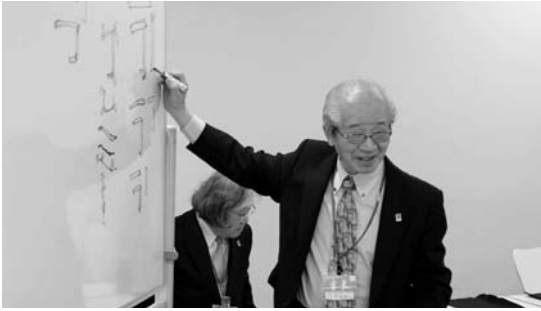
今回の実技講習会には、様々な場面で活用できる実用書の基本を学ぼうと約二十名が参加して、実用書の楷書・行書や地名、葉書・封書の書き方など、各書式・様式の手本に取り組みました。

用意していただいた手本を眺めているだけでも、眼は養われ、腕も一段と上達するよう思われました。

最初に市澤静山先生から、欧陽詢や虞世南を例に解説していただき、「信山書法」の執筆法

を丁寧に実技指導していただきました。
次に内藤望山先生からは、字形の構築や、中心線を貫く重心とバランスの大切さについて助言をいただき、藤森大節先生からは、葉書・封書の手本による具体的な書き方を指導していただきました。

最近パソコンなどの普及で、文字や表記を正確に美しく書く機会が少なくなっています。今回の貴重な経験を是非、生活の中で生かしていきたいと思えます。
(久保田麗香記)



市澤静山先生による解説



内藤望山先生による添削



基本の大切さを実感



机間巡視による丁寧な指導

柳澤玄嶽・書の世界

会期 五月二十八日(火)〜六月二十三日(日)
会場 埼玉伝統工芸会館・特別企画展示室

都心から少し離れた緑豊かな小川町は、酒蔵が三つもあり、駅前から「三酒蔵めぐり」のバスが出るほどです。「いぎ、鎌倉へ。」の鎌倉街道も一般道として今に残ります。江戸城無血開城に深くかかわり、後に明治天皇の侍従となった山岡鉄舟の領地もありました。二〇一四年には、平成天皇皇后両陛下が、小川町にある埼玉伝統工芸会館にお立ち寄りになり、後にユネスコの世界文化遺産となった細川紙をご高覧されました。

この度、この歴史と伝統のある小川町の埼玉伝統工芸会館で、玄嶽の個展を開催しましたことは大変光栄至極なことでした。展示企画内容は以下でした。都美術館での「TOKYO書・公募団体の今二〇一七」の出品作三点を含む大作から小品まで合わせて一五点。うち「令和」など二字を書



圧倒する作品が迎える



じっくりと鑑賞する来場者



世界文化遺産となった細川紙による作品



多くの来場者で賑う会場

いた細川紙のランプシェード作品が三点。細川紙に書いた作としては他にも、六二×八八センチの楷書「敬天愛人」(南洲句)、九〇×五八センチのカタカナ交じり書「人ハ至誠ヲモッテ・・・」(鉄舟語)等五点。大作では、全紙縦二枚継ぎ二幅に大字の「驚才風逸、壮志煙高」(文心雕龍)、全紙縦二枚継ぎ六幅に信山バリの「篆隸相・・・」(同)等四点。他に半切の行草作品等。主に文心雕龍を素材とした作品が九点見られ、玄嶽の書作のライフワークとなっているものでした。

埼玉伝統工芸会館は「道の駅」という側面もあり、千差万別・国籍を問わず、たくさんの方々を訪れました。世界旅行中のスイス人、修学旅行中の香港の小学生ご一行、無農薬野菜研修中の北欧の青年達や母親の里帰りに同行したタイの医大生

等。文字は読めないけれど、皆様、絵画でも観るように熱心にご覧くださいました。その姿に私も、感激致しました。信山バリの魅力と日本文化の素晴らしさを改めて感じました。

また、上條家からは唐澤かづ子様、書象会からは理事長ご夫妻をはじめ副理事長、諸先生方、たくさんの方の皆様に高覧ご教示いただき感謝に堪えません。ありがとうございました。

(玄嶽支部 柳澤雪葉記)

令和元年度春季昇段級試験・師範・準師範・特待生昇格試験特集

師範 雅 安藤 雅楓

おまへ人間を救済するものが三つ程
 一つは文学であり、一つは芸術であり
 一つは宗教と云ふべきであらう。

文字の大小が効果的で力強さと自然の流れを感じさせる。文字の中の無理ない余白によって、一層ゆたかりとした安定感が表現されている。

師範 若松 小田 由紀

おまへ人間を救済するものが三つ程
 一つは文学であり、一つは芸術であり
 一つは宗教と云ふべきであらう。
若松 由紀

仮名をスマートに、漢字を大きく書くことで、行間が明るく美しいに仕上がった。手本の各行の流れを的確に捉えている。

準師範 紅竹 中村美音里

おまへ人間を救済するものが三つ程
 一つは文学であり、一つは芸術であり
 一つは宗教と云ふべきであらう。

漢字と平仮名の大小長短の調和がうまくとれている。行の中心がとおり、縦に流れる貫通力がある。

準師範 若宮 竹前 梗華

おまへ人間を救済するものが三つ程
 一つは文学であり、一つは芸術であり
 一つは宗教と云ふべきであらう。 梗華

やわらかな伸びのある線質で、文字の形も整っているため、上品で格調の高い作品に仕上がった。

特待生 華雪 森本紗和子

心がこもった言葉には、深い
 悲しみにいる人の心を動かす
 不思議な力がある。
華雪 森本紗和子

漢字、平仮名の大きさのバランスが良い。字間・行間の広さも適切なため、一字一字が見やすく、全体もまとまった。

特待生 柏心 大谷 優

黄色い
 草花
中二 大谷 優

穂先の弾力を効かせて引き締まっていた線で書けている。やや小ぶりに書き、余白を生かした紙面構成は見事。平仮名がやや大きかったか。

特待生 練馬 高瀬 友里

黄色い
 草花
練馬 中三 高瀬 友里

メリハリのあふれる筆遣いで伸び伸びと書けている。文字の大きさや配列も計算されていて、日頃の練習の成果が十分に発揮されている。

特待生 名東 落合 里名

黄色い
 草花
中三 準八 落合 里名

確かな筆遣いが光る秀作。余白を意識しながら文字を組み立てられている。本文同様に名前も立派に書けている。

特待生 有虹 井口 愛理

黄色い
 草花
中二 井口 愛理

元氣よく堂々と書けた力作。力強さの中にも繊細さがあり、技術の高さが窺われる。名前を含めて半紙に上手にまとまっている。

師範



杉 藤木 隆二

墨量豊かで、一気に書き上げられた秀作。逆筆もよく効いて切れ味鋭い線質が魅力的である。

師範



有象 石井 青峰

キレのある線質で、正確な筆遣いは安定感がある。宿墨のにじみが独特の雰囲気醸し出している。

準師範



志摩 倉谷 泰風

大きな運筆による、伸びのある線質が特徴。文字の大小、墨量の変化を自然に表現した。落款のバランスもよく、全体の調和もとれている。

師範



磯辺 古屋 葉明

一貫して等しい太さの線で仕上げられている。鈍度の高さ、のびの良さ等、行き届いた秀作である。

師範



玄樸 濱田 緑風

余白の美しさが目に鮮やかである。潤濁の変化が上手く表現され、静かな作品となっている。線質も強い。

準師範



大阪 片岡 珠松

充実した力強い線は隸書の基本用筆が身につけていることの証左。墨の潤濁も効果的。やや縦長に構えた字形は改善の余地あり。

第36回読売書法展入賞・入選者一覧

(△印は会友)
(順不同)

◆読売新聞社賞 (一名)

仲島 秀峰

◆読売俊英賞 (二名)

都所 影花 針原 伯翠

◆読売奨励賞 (三名)

畔原 小霞 田中 紫花 橋本 桂雪

◆特選 (五名)

〈漢字部〉

△久保田珠悠 早川 雅節 牧野 蘭庭

松岡 馨秀

〈調和体〉

平野 壺桜

◆秀逸 (二十三名)

〈漢字部〉

池口 聖嶽 石井 菁峰 △伊藤 西光
浦山 蒼樹 △小田切静唱 △工藤 和春
小島 華凌 △小林 宵月 早乙女墨光

〈調和体部〉

△青柳 緑水 秋葉 景華 △古賀 沙苑
△小林 皓山 △藤井 憬花
△柳田 志華 △山口 芳節 △米倉 花光
△山田 童柳 △長田 詠李
△古賀 景華 △森 晨英

◆入選

〈漢字部〉 (八十五名)

新井 雄峰 池野 愛麗 石塚 心燈
石原 楚峰 伊藤 恵佳 井上 江静
宇野 夏夕 榎元 仙翠 大澤 輝節
大村 玻玉 小笠原陽麗 小川 玄虚
織戸 晨玉 加賀美節真 影山 天性
加藤 祥葉 加藤 静花 門脇 華杏
金坂 心快 鎌上 小楓 上條 窓苑
神谷 董節 神谷 蘭月 川久保麗爽
菅野 芋里 草薨 影宵 熊坂 呉碩
桑島 秀雪 小池 峰弦 後藤さくら
小林 真志 斎藤 華駿 崎山 芳葉
佐久間秋玉 笹川 静章 佐藤 尚山
重盛 耀岳 嶋埜 壺玉 杉本 統華

〈調和体〉 (二十名)

鈴木 杏静 関口 越山 関根 祥節
副島 瑠璃 鷹谷 聡心 高橋 淡愁
田幸 智峰 伊達 潮虹 田中 穂暉
土井 雲峯 遠峰 櫻庭 豊田 尚月
虎本 溪風 内藤 秀月 中島 茜英
長島 天意 中田 皓花 中谷 友節
中村 春桃 西谷 風聲 布下 真静
野口 節風 畑田 穂苑 濱野 清遠
原田 晶山 姫野 千節 平田 早穂
平田 黎湖 深瀬 幸子 星野 華逕
松井 小湫 松田 司峰 松村 恭月
御子柴英遠 宮枝 華風 村山 麗恵
森 游真 森島 美光 安原 莉夏
山中 孔心 山本 爽節 山本 明光
吉岡 蒼風 吉田 煌扇 吉田 麗楓
渡辺 琇心

伊藤 水玉 稲葉 京春 岩橋 祥風
衛藤 琴光 緒方 愛節 甘中 恵果
久保田麗香 小林 富静 近藤 静志
齊藤 祥仙 佐藤 茜沙 高橋 麗湖
立花 壮山 谷川 汀楓 長谷川竹心
原口 華煌 宮入 杜心 宮澤 晃静
森井 京琴 森田由紀子

◆会友出品

〈漢字部〉(三十三名)

石沢 秀庭 榎本 壺清 大場 香峰
 荻原 梓虹 春日 皓静 片桐 南花
 金澤 瑤月 金子 夕紅 北村 暎光
 小林比出代 齋藤 優月 桜井 石風
 鹿谷 光琴 宿谷 硯心 鈴木 征峰
 高見澤恒静 滝本 華光 竹本 谿山
 谷 秀紅 塚本 皎沙 都竹 仙華
 中井 陽理 中堤 春里 中邑 弦照
 中山 香月 平岡 想花 布施 杠華
 前田 珠静 美齊津嶽心 三沢 泰仙
 茂木 麗節 山口 竹童 山田 白葉

〈調和体〉(十名)

宇野 壺裕 岡本 秋麗 小倉 煌雪
 窪田 溪苑 島田 壺峰 平 凌山
 中川 汀松 林田 翠山 藪内 光葉
 横井 萌玉

◆役員出品

◎本年度審査員

○企画委員

田中 節山

○企画委員・執行委員・東京展実行委員長代行

特別賞選考委員

市澤 静山

○東京展副実行委員長

内藤 望山

○参与(一名)

原田 柳泉

○理事(三十六名)

◎杉山 暎雲 ◎鈴木 春鳳 ◎山口 啓山

芦川 臨泉 池上 湖心 石丸 暎風

今井 翔山 大澤 梢光 大島 皎山

荻田 光山 恩田 静月 蕪木 珠紅

久保 妍山 小暮 静翠 小淵 石峯

小室 墨汀 坂牛 静心 洪江 皎雲

杉山 窓影 鈴木 花照 関 香風

竹内 墨洋 竹内 藍山 露崎 玄峯

寺尾 碩雲 中内 真意 中村 巍山

成瀬 恵苑 畑中 高山 原 秀石

樋口 玄山 藤澤 珠玉 藤森 大節

宮本 耕成 柳澤 玄嶽 渡辺 華雪

○幹事(四十五名)

青木 橙華 有馬 花嵐 安蒜 小映
 江上 玄光 岡田 象月 岡本 素雪

○評議員(三十五名)

小川 仙草 小原 香菊 北井 珠虹
 木本 彩暉 小柳 貞松 小山 春聲
 齐田 昌静 佐藤 京香 島村 霞菖
 清水 扇章 白濱 静苑 杉山 登舟
 鈴木 香扇 鈴木 草影 関澤 劔山
 竹内 青紗 武原 幽節 田中 珠光
 都所 影花 仲島 秀峰 中村 秀華
 中山 峰鶴 橋本 幸楓 長谷川 石心
 針原 伯翠 日比野 照悦 福山 京江
 藤澤 竹虹 益田 冠山 松田 幼山
 松本 小光 宮崎 京楓 宮田 天遥
 宮寺 瑤光 柳澤 雪葉 山崎 惜春
 余語 元祥 横田 四葉 横田 小泉
 畔原 小霞 石堂 玲虹 泉澤 禾苑
 大山 芳園 岡野 冷泉 鹿野 晴峯
 上條 哲山 川島 映雪 來司 信博
 児玉 葉雪 小西 琴月 小林 貞月
 齋藤 盈月 齐藤 悠花 酒井 不同
 下平 南岳 神保 緑泉 鈴木 花仙
 田中 紫花 田中 翠花 塚原 花瑤
 遠山 天妙 錦織 明花 野口 虹汀
 納戸 碧雲 橋本 桂雪 秦 頼山
 八矢 好嶽 日比野 汀華 平川 華凜
 福島 玲秀 向山 大我 結城 正憲
 横川 景城 吉田 節城

書象会通信条幅研究会課題の解説（令和元年八月～十月まで）

信山流



今回の「バリ」は、楷書でガッチリと書かれています。造形の確かさ、強い筆力が生む骨格の強さ、生命感溢れる世界の表現に挑戦してみましょう。
注意点としては、
・筆をしっかりと持ち、基本である逆筆を習得する。
・一行の流れを表現するために、文字の大小と墨色の変化に留意する。
・腕、肘を堂々と大きく使って「スピード感」を表現する。

隸書



五文字の横幅がほぼ統一されており整然とした佇まいを見せています。垂平・平行・等分割を意識して右上りにならない連筆を心掛けましょう。
・雲：「雨冠」を横幅いっぱいに取り、「云」は三角形で小さくまとめる。
・起：唯一の走りよりの払いを伸びやかに。
・萬：「艸」は左を大きめに「禺」は等分割で左右対称に仕上げたい。
・松：「ム」は三角形でやや丸味を持たせる。
・低：旁は、偏の中に納める。

仮名



最初に十分墨を含ませ二行目の半ばまで一筆で一氣に書かれ、「さき」で軽い墨継ぎがあります。ハッキリした潤濁の変化は、平らな紙面に立体感を生じさせ、黒と白だけの単純とも言える表現に息遣いと華やかさを見せてくれます。
筆の大きさや紙の種類によっては十分なカスレが出にくいこともあります。そんな時は、ティッシュなど水気を吸いやすい紙を利用して墨量を調節するのも一つのテクニックとなります。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

字を書くことの楽しさ



名東支部 中三

木下千鶴

友達や家族に字がきれいだねと言われるのは、とても嬉しく、小さい頃から習字を続けてきて、よかったです。熱心に指導してくださいました先生のおかげです。これからも、もっとと上を目指して頑張りたいです。

念願の特待生



正桂支部 中三

白濱輝

僕は、小学一年生から書道を習い初め、今やっと念願だった特待生になることができました。今までご指導してくださった先生と支えてくれた親に感謝し、これからもより良い字が書けるようがんばりたいです。

高みを目指して



中野支部 中三

田川彩音

特待生とすることができ、嬉しく思っています。いつも温かい指導をしてくださる先生、支えてくれる家族に感謝したいです。これからも、慢心せず、追究する気持ちを持ち続け、更なる高みを目指したいと思えます。

感謝



芙蓉五支部 中二

齋藤可奈英

今回、毛筆でも特待生になることができ、目標であった二冠達成をすることができました。ここまでこれたのは、指導してくださいました先生や、応援してくださいました家族がいたからなので、しっかり感謝を伝えたいと思います。

嬉しい



伊奈支部 中一

原田京佳

小二から始めた毛筆。今回特待生になることができ、とても嬉しいです。ここまで丁寧に指導してくださいました先生にも感謝しています。これからもさらに上を目指してがんばってまいります。

決意



土筆支部 中三

鈴木啓太

僕は、小一の頃に、書道を習い始め、中三でやっと特待生になることができました。また、特待生になれたのは、家族や、先生の支えがあったからです。高校生になっても、先生のもとで、精進していききたいと思えます。

努力



雅支部 中一

山元寧士

一年生から習字を始めました。7年間続けられたのは根気強く教えてくださった先生のおかげです。ずっと目標にしていた特待生になれてうれしかったです。次は、毛筆も特待生になれるように頑張りたいです。

次の目標



雅支部 中一

山地菜生

私はずっと特待生になるのを目標にしてやってきました。だから、硬筆で特待生になれてすごくうれしいです。そして、指導して下さった先生にはとても感謝しています。毛筆でも特待生になれるように頑張ります。

目標達成



伊奈支部 中一

荒木真結

習字を始めて約七年。目標としていた特待生になることができ、とてもうれしいです。いつも丁寧に指導してくださいる先生のおかげだと思います。これからも、行書を上手く書けるように頑張りたいです。

支部長先生より一言 硬筆合格おめでとう。今後の自信につながってね。

少年少女のページ 「わたしの会の仲間達」

飯山支部 小五 酒井 萌 愛



にこにこ笑顔の絶えない萌愛ちゃん。少しずつ上手になっていきますよ。色々な事を楽しく話してくれます。これからも益々上達する様頑張りましょう。

飯山支部 小六 宮澤 袖羽



大らかで、何事にも興味津々な袖羽ちゃん。左利きですが毛筆は右手で上手に書きこなしています。硬筆は左手と両刃遣いですね。小学校最後ガンバレ。

飯山支部 中二 渡辺 六花



しっかり者の六花さん。最近めきめき上達しましたね。感覚がよくこれからが楽しみです。四人姉弟の三番目とか、上から下から鍛えられますね。頑張り。

大田支部 小六 國井 莉 桜



莉桜ちゃんは、小学二年生からチアダンスをしています。チアで試合に華を添え、皆に元気を与えている女の子です。晝道との両立、応援しています！

大田支部 小六 吉田 留唯



最近めきめきと力をつけている留唯ちゃん。自他共に認める集中力の賜物ですね。英会話を頑張り、絵を描いたり読書をしたり、細かい作業も得意です。

神奈川支部 小六 古谷 拓海



水泳とサッカーも習っていて、料理も好き。沈着冷静なのにユーモアがあり、じつくりと課題に取り組む姿は立派です。将来はデザイナーを夢見ています。

神奈川支部 小六 岡本 理沙



ピアノ、テニス、英語も習っています。何事にも一生懸命に取り組む努力家です。お大らかで力強い字を書きます。今後も特待生目指して頑張り下さい。

茜支部 小六 小林 千咲音



元氣な千咲音さんは学校ではサッカー部で習字は休む事なく集中力も増し良い字を書きます。書初も毎年大きな賞を頂き目標は特待生です。頑張り！

大田支部 小六 岩原 千秋



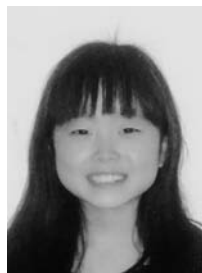
千秋ちゃんの周りには笑い声が絶えません。いつも楽しく課題に取り組んでいます。六年生になり難しくなってきた英語も、意欲的に頑張りしています。

大田支部 小六 服部 美吟



人の気持ちを察することができ、友達に好かれる美吟ちゃん。空手を頑張りながら、書道にも欠かさず出席しています。読書好きという一面もあります。

愛心支部 小三 小野寺 夏希



しっかり者の夏希ちゃん。音楽が好きでピアノ、水泳、書道を習っています。家では犬のハニー君と散歩したりシャンプーしたりして楽しんでいます。

紅竹支部 小五 富岡 遥香



素直で笑顔の可愛い遥香さん。大好きな書道と共に月二回の陸上練習に通う頑張りやさんです。線も太く、堂々としています。これからが楽しみです。



△隷書条幅▽ 評 中村 巍山

壺 玉 正確に形をとらえた。格調も高い秀作。

竹 虹 やゝ小ぶりにまとめた。深味のある作。

壺 藍 含墨で全体を統一した。墨色もよい。

椀 舟 明るく清澄さを感じる。骨力あってよい。

幸 楓 潤濁の対比がよい。逆筆の強さ抜群。

秀 峰 巧みな筆さばき。奥深い味わいのある作。

響 山 手本に忠実でよい。更に大胆に。

春 光 字形みごと。今一步ためでもよい。

△条幅随意▽ 評 久保 妍山

桑野小琇 太い線で流動美のある作品。この調子で。

浅井菖風 濃淡の変化をつけ、全体感良く仕上げた。

金山雨虹 切れの良い線でまとめられている。佳。

△通信条幅▽ 評 柳澤 玄嶽

松田司峰 基本点画に忠実で骨格がしっかりした結構佳。

高田霽楓 形の確かさ、筆圧の強さ、大佳。

井上悠水 大きな動きで迷いなくまとめた。



基本課題

評 小淵 石峯

島村霞蒼 文字に横への広がりがあり安定感良し。
川島映雪 爽快さを感じる作。線の切れもよい。
岡本秋麗 逆筆がよく効いた伸びやかな線である。
金澤路月 墨量豊かで、柔らかなで悠然とした作。

研究課題

評 成瀬 恵苑

荻原梓虹 墨量豊かで、逆筆を効かせた強い線。
小暮静翠 鍊度を感じさせ、伸びやかな線である。
佐藤茜沙 深みのある重厚さを感じさせ、かつ雄大。
東 瑞逕 二字ともに左部を強調した躍動感ある作。

古典課題

評 白濱 静苑

加藤静花 筆勢があり、写実的に仕上げた秀作。
松尾小楓 形を正確にとらえて美しく、スキがない。
小野壺水 明るく軽快にまとめ、形も正確でよい。
藤井静素 筆圧の強さが目をひき、落着きある作品。

師範部

△楷書▽

評 大澤 梢光

井上雅幸 品格の高い鍊度ある作。余白が美しい。
下平成苑 澄みきった線で伸びやかに書けた。
岡江邑峯 墨の含みが良く落ちついた作。
小山勇峯 安定感のある筆遣いが印象的。
垣内孝子 細部にわたり神経の行きとどいた作。
平岡想花 淡墨の墨で爽やかに仕上げている。
田島涛仙 文字の配分もよく余白が生きている。
片岡珠松 正確な筆遣いで全体感もよい。



影山天性 一点一画安定感のある筆法で表現できた。

中原宏恵 弾力のある線でふところの広い作。

竹野翠紗 雄大な作、清々しい印象をあたえる。

姫野千節 正確な字形で腕がよく動いている作。

小林貞月 落ちついた作品、安定感がある。

中田皓花 軽快な線で、明るく仕上げている。

福島綾羊 一字一字丁寧に書かれ、落ちついた作。

平野里奈 躍動感があり、墨色の良さが目を引く。

△仮名▽

評 小淵 石峯

豁 擘 琴線のように強靱な線質。流れもよい。

惜 春 雄大なのびのある作品。大胆な筆致だ。

恵 香 強弱があって変化に富んだ作。線も強い。

硯 心 遅速緩急をつけている。線の歯切れよし。

泰 慧 書き馴れた作。連綿のリズム最高。

映 芳 清涼感が漂ってくる。甘さ、強さあり。

素 舟 大胆な運筆で、豊潤な線表現がうまい。

静 志 紙面を圧倒する迫力感あり。字形もよい。

緑 水 空間美が作品を明るくした。鏗度ある作。

峰 雪 軽快な流れがよい。清らかで響きある作。

翠 雅 やや大きいリズムカルな線質となった。

道 幸 小ぶりで瀟洒な作。清らかな美しい作品。

中一 鈴木莉理子 独歩	小ニ 宮山たくと ビテシ	小四 永原 依奈 生た会ん	小六 田口舞絃 流れ作業	中二 井口愛理 印象的 な話
五年 宮川友花 令和	小ニ 杉山おのさわか ビテシ	美菜 四年 中 梨華 生た会ん	小六 玲那 流れ作業	中二 準八 山本愛美梨 印象的 な話
小四 梅田ことね 黒	けいけい(ねんもり)ごころか そら	小三 あおい 明つけゆ	小五 準四 大槻 志穂 空ゆく雲	中一 坂本陽平 青雲 大志
小ニ まきのあんな 白	小一 ゆづき そら	小三 押田卓飛 明つけゆ	中二 莉緒 空ゆく雲	中一 梨未 青雲 大志

学 生 部

評 坂牛 静心

井口愛理 力強い線で伸びやかに書けている。

山本愛美梨 丁寧な筆使いで形よく書けている。

坂本陽平 伸び伸びとして雄大。文字の形もよし。

高島梨未 四文字を太くバランスよくまとめた。

田口舞絃 正しい筆使いで、形よく書けている。

朝能玲那 伸びやかな筆使いで軽快に書けている。

大槻志穂 気分よく筆を運んでいる。秀作である。

大竹莉緒 真面目に一生懸命書いており、秀作。

永原依奈 正確な筆づかいで伸びやかに書けた。

柳田梨華 手本をよく見て素直な線で書けている。

立花碧唯 腕を大きく動かしてのびのびと書けた。

押田卓飛 堂々とした線で力強く書けている。

宮山拓士 大ききのびのびと書けています。

小野さやか 元気一ぱいに書きました。

森崎るな 墨をたくさんつけて元気よく書きました。

青木柚月 力よく、形よく書きました。

半紙 随意

評 中内 真意

莉理子 力強く堂々とした線で書けた。この調子。

友 花 字の大きさ、形よく出来ています。大佳。

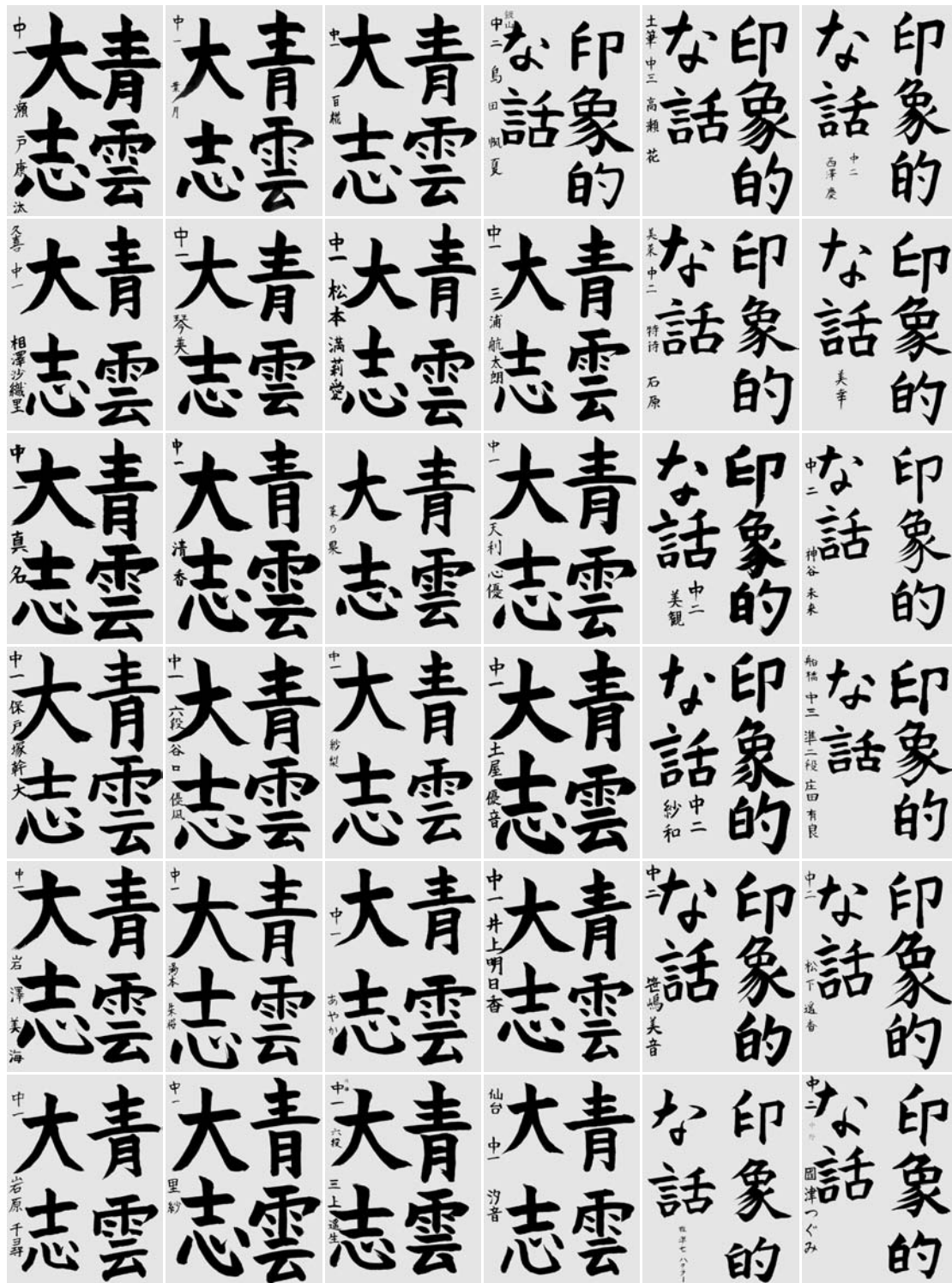
ことね 筆の入り方、終わり方がとても上手です。

杏 奈 大きく、のびのびとしたせんでかけた。

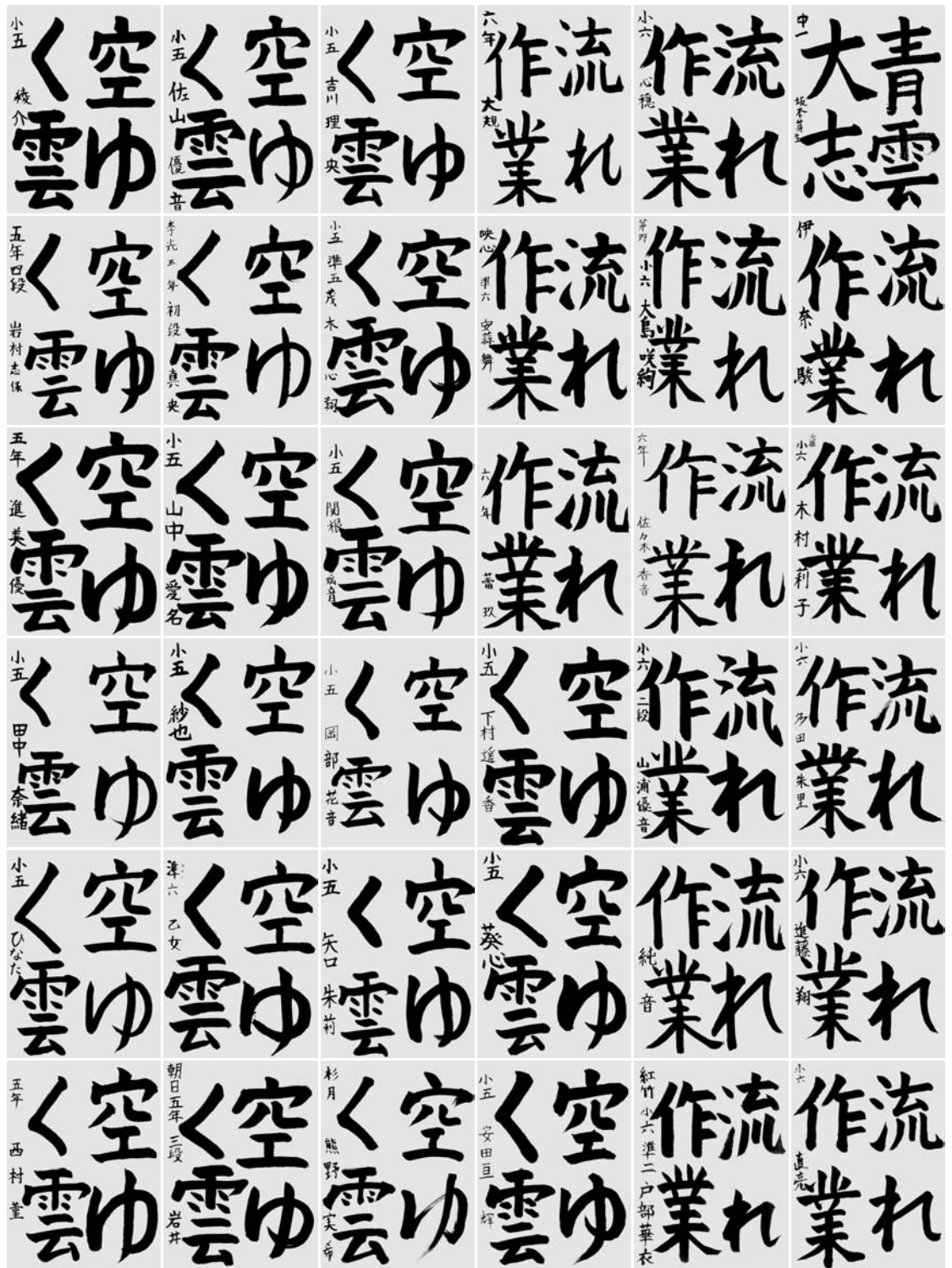
このページに掲載された人には書家会より記念の筆をさし上げます。

		有泉 三波 隆来	伏膺			大塚 淳二 博司	鑒踈朗			佐々木 由紀	豁然開
		高星 四波 友加里	伏膺			若松 準和 節子	鑒踈朗			藤 五 志夫	豁然開
		長打原 立坂 有宣 捐	伏膺			踏花特二級 大坪 千紗	伏膺			藤三級 高田 倫	鑒踈朗
		八戸 六級 詩香	伏膺			久喜 川鍋 裕子	伏膺			藤三級 小林 美子	鑒踈朗
		杉 二級 杉浦 香織	伏膺			富貴 一級 菊地 麗貴	伏膺			小平 準二 澄華	鑒踈朗
		文化 新 美保子	伏膺			美采 二級 笠原 浩代	伏膺			竹中 二級 佐藤 季南	鑒踈朗

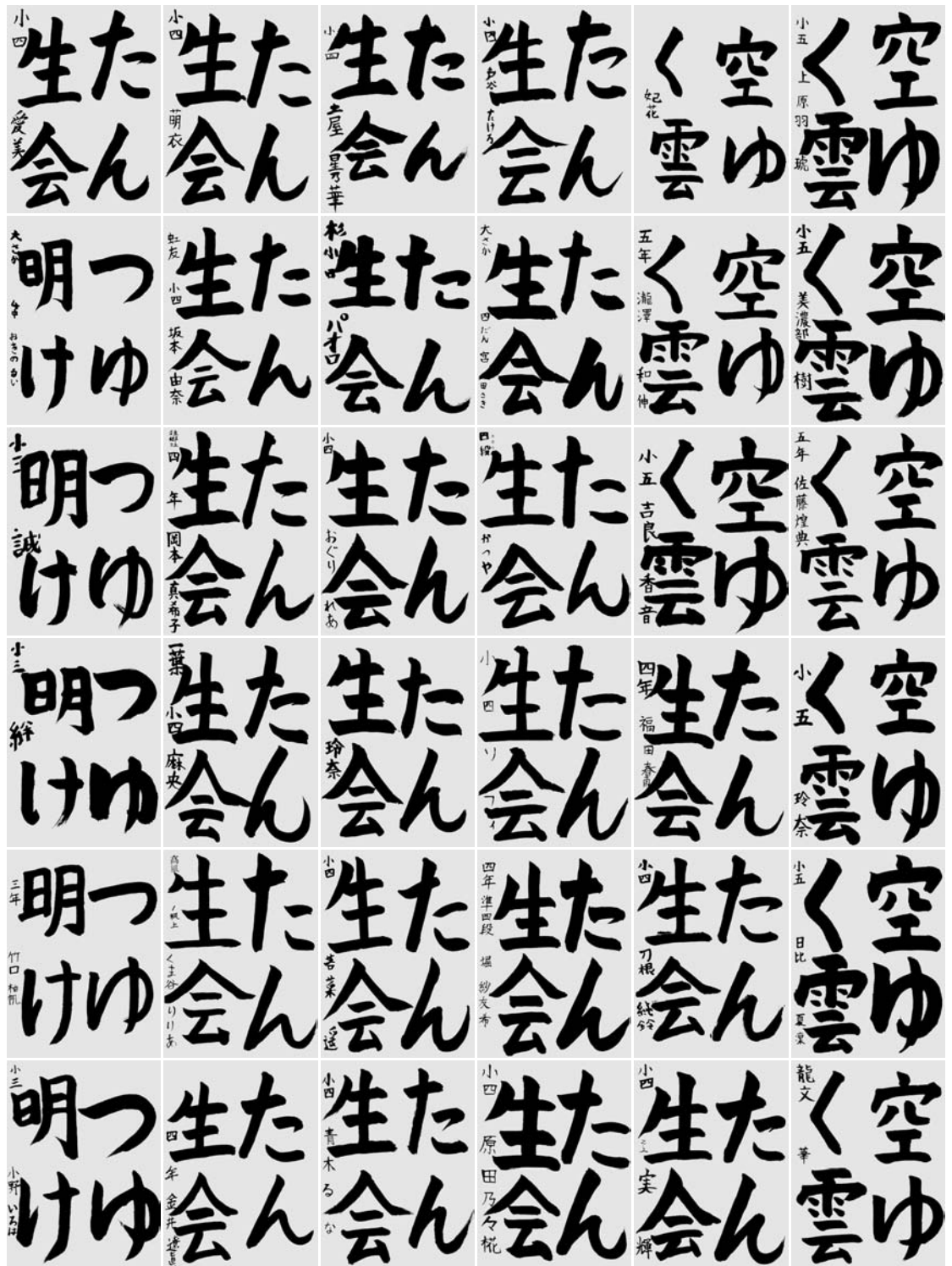
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|-----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 長野 | 杜会 | 蔵雲 | 倚雲 | 八潮 | 高風 | 柏芳 | 松戸 | 横二 | 美菜 | 倭八 | (段位) | 八南 | 落合 | 江 | (假名) | 文化 | 杉 | 八戸 | 長寿 | 游墨 | 有象 | 美菜 | 富貴 | 久喜 | 皓花 | 若松 | 大阪 | 竹華 | 小平 | 霞墨 | 麗墨 | 横二 | この | 倭 | 游墨 | 柏心 | 俊 | 若松 |
| 浅沼 | 関水 | 泉野 | 宇野 | 斎藤 | 岩井 | 平井 | 金子 | 赤澤 | 大橋 | 冲真 | 八南 | 八南 | 落合 | 江 | 住吉 | 杉浦 | 西野 | 有賀 | 金子 | 渡邊 | 笠原 | 菊地 | 川鍋 | 大坪 | 川島 | 福田 | 佐藤 | 岸野 | 小林 | 高田 | 後藤 | 多賀 | 森 | 飯島 | 西村 | 小田 | 若松 | |
| 清美 | 敬子 | 育衣 | 育衣 | 実里 | 乃歌 | 尚之 | 千夏 | 峯雪 | 露明 | 由美 | 美保子 | 美保子 | 浩代 | 浩代 | 泉 | 泉 | 香織 | 香織 | 里 | 里 | 浩代 | 浩代 | 麗貴 | 千紗 | 千紗 | 郁子 | 郁子 | 李南 | 澄華 | 翔珠 | 昭真 | 昭真 | 宏美 | 宏美 | 由紀 | 由紀 | | |



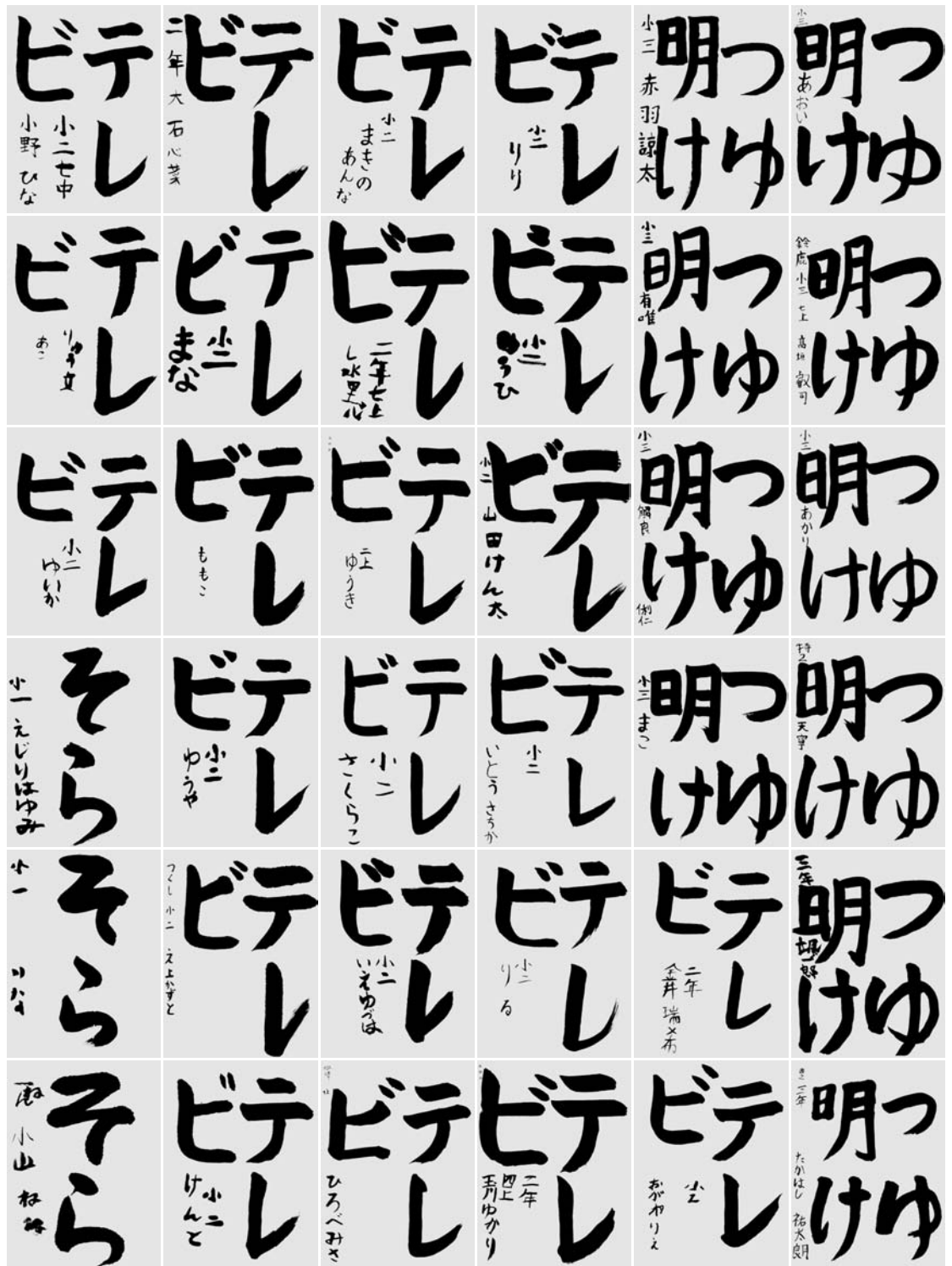
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|------|------|
| 大田 | 硯 | 硯 | 一 | 久 | この | 秀 | 正 | 名 | 華 | 若 | 渚 | 暁 | 汀 | 竹 | 玄 | 霞 | 綾 | 仙 | 倚 | 倭 | 高 | 平 | 飯 | 雅 | 華 | 宇 | サ | 美 | 土 | 中 | 美 | 船 | 若 | 珠 | 妻 | 〔中二〕 | 〔毛筆〕 |
| 岩 | 岩 | 保 | 大 | 相 | 瀬 | 稲 | 湯 | 谷 | 谷 | 青 | 城 | 三 | 高 | 山 | 紗 | 北 | 松 | 三 | 針 | 井 | 土 | 三 | 三 | 島 | ハ | 福 | 杉 | 石 | 高 | 國 | 松 | 庄 | 神 | 板 | 西 | 三 | |
| 原 | 澤 | 戸 | 久 | 澤 | 戸 | 垣 | 本 | 口 | 崎 | 木 | 戸 | 上 | 山 | 高 | 川 | 本 | 浦 | 生 | 上 | 屋 | 天 | 浦 | 田 | ク | 原 | 本 | 瀬 | 津 | 下 | 田 | 谷 | 谷 | 科 | 三 | | | |
| 千 | 美 | 塚 | 保 | 相 | 瀬 | 垣 | 本 | 口 | 崎 | 木 | 戸 | 上 | 山 | 高 | 川 | 本 | 浦 | 生 | 上 | 屋 | 天 | 浦 | 田 | ク | 原 | 本 | 瀬 | 津 | 下 | 田 | 谷 | 谷 | 科 | 三 | | | |
| 尋 | 海 | 幹 | 真 | 澤 | 戸 | 里 | 朱 | 優 | 清 | 琴 | 葉 | 遙 | 綾 | 花 | 乃 | 乃 | 百 | 沙 | 日 | 優 | 心 | 航 | 帆 | 美 | 美 | 美 | 光 | 花 | つ | 有 | 未 | 美 | 慶 | | | | |



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|------|----|
| この | 秀雪 | 若竹 | 富貴 | 皓花 | みな | 朝日 | 芙二 | 華雪 | 城彩 | 李光 | 有穂 | 杉月 | 霞墨 | 若宮 | 八潮 | 葉月 | 虹苑 | 房風 | 光丘 | 玄黙 | 山愛 | 映心 | 宮地 | 紅竹 | 松戸 | 名東 | 神奈 | 茅野 | 華雪 | 竹華 | 八潮 | 和象 | 伊奈 | 【小六】 | 宝春 |
| 西村 | 高橋 | 田中 | 進村 | 岩村 | 山口 | 岩井 | 大野 | 山田 | 山中 | 小川 | 佐山 | 熊野 | 矢口 | 岡部 | 関根 | 茂木 | 吉川 | 安田 | 滝田 | 下村 | 野崎 | 安蒜 | 田中 | 戸部 | 野山 | 山浦 | 佐々木 | 大島 | 緒方 | 三原 | 進藤 | 多田 | 木村 | 茂呂 | 坂本 |
| 董 | ひなた | 奈緒 | 美優 | 志保 | 稜介 | 乙女 | 紗也 | 愛名 | 真央 | 優音 | 実希 | 朱莉 | 花音 | 璃音 | 心翔 | 理央 | 巨輝 | 葵心 | 遙香 | 蕾玖 | 舞 | 大規 | 華衣 | 純音 | 優音 | 咲綯 | 心穩 | 直亮 | 朱里 | 莉子 | 駿 | 芽生 | | | |



名東	源創	霞墨	華雪	大阪	華雪	湊	高風	一葉	往郷	虹友	光丘	北府	秀雪	月	可児	杉	柏心	有虹	皓花	山愛	芙二	大阪	蔵	上尾	水代	硯	硯	シ	玄機	龍文	瑞祥	めぐ	平成	練馬	高社
小野	竹口	内村	土屋	沖野	谷川	金井	熊谷	山内	岡本	坂本	古谷	青木	若菜	山崎	小栗	土屋	原田	堀	ソフ	佐藤	宮田	戸谷	廣瀬	刀根	福田	吉良	瀧澤	源	小松	日比	宮崎	佐藤	美濃	上原	
いろは	帆	絆	誠	瑠一	愛美	遠真	凛々	麻央	真希子	由奈	萌衣	るな	遥	玲奈	嶺愛	乃華	紗友希	友希	克哉	真緒	沈尊	実輝	春南	香音	和伸	香音	和伸	和伸	和伸	和伸	和伸	和伸	和伸	和伸	和伸



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|-----|------|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| シ | 霞墨 | 青雲 | 【小一】 | 若松 | 龍文 | 名東 | 瑞祥 | 土筆 | 練馬 | 成城 | 花蓮 | 杉月 | 松聲 | さわ | 華雪 | 美二 | 皓花 | 凜心 | 英五 | 峰 | 秀雪 | 須坂 | 硯扇 | 蓮田 | 千曲 | 湊 | 【小二】 | 富士 | 玄黙 | 光丘 | 照澤 | 書之 | 千曲 | 宮川 | 秀雪 | 鈴鹿 | 右文 |
| 小山 | 田中 | 江尻 | 【小一】 | 小野 | 原田 | 小野 | 坪井 | 江上 | 津久 | 諏訪 | 立花 | 大石 | 廣部 | 伊得 | 井岡 | 吉村 | 清水 | 牧野 | 玉川 | 渡邊 | 伊藤 | 山田 | 岩間 | 山口 | 小川 | 金井 | 宮岡 | 解良 | 友野 | 赤羽 | 高橋 | 春日 | 宮前 | 榎本 | 高垣 | 大野 | |
| 寧々 | 璃夏 | はゆみ | 【小一】 | 柚衣 | 彩心 | 雛 | 和音 | 和音 | 悠也 | 内桃子 | 愛菜 | 心菜 | 美沙 | 鶴華 | 桜子 | 優来 | 里心 | 杏奈 | 瑞瑠 | 彩愛 | 健太 | 祐陽 | 璃々 | りえ | 瑞希 | まこ | 有唯 | 諒太 | 春風 | 天寧 | 朱里 | 向葵 | 向葵 | 向葵 | 向葵 | 向葵 | |

一番鴉が啼きけしやと小鳥も朝の
移移わたりしとさやゆやゆと
けけけけ谷間の村々にし朝う都り。
佐々木 持正

新緑の郊外の町を歩き、家並
みもいつか尽きてあたりはすっ
かり村の景色になった。光亨、中二
古賀 美穂

新緑の郊外の町を歩き、家並
みもいつか尽きてあたりはすっ
かり村の景色になった。光亨、中二
古賀 美穂

わたしは、星にきょうみがあ
ります。天体望遠鏡で夜空
を見たいです。有穂、五、建五郎
川久保 美穂

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。杉田、四、書四郎

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。書文、五、四、建五郎
河野 登士

で	夕	小
い	ぐ	さ
ま	れ	な
す	の	赤
	空	と
	に	ん
	と	ぼ
	ん	が

一番鴉が啼きけしやと小鳥も朝の
移移わたりしとさやゆやゆと
けけけけ谷間の村々にし朝う都り。
佐々木 持正

新緑の郊外の町を歩き、家並
みもいつか尽きてあたりはすっ
かり村の景色になった。光亨、中二
小田 悠家

わたしは、星にきょうみがあ
ります。天体望遠鏡で夜空
を見たいです。八潮、六、四、四
古内 豊香里

わたしは、星にきょうみがあ
ります。天体望遠鏡で夜空
を見たいです。北所、六、六、六
岩崎 真緒

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。一絵、五、四、一
梅田、心美

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。しま、二、二、二、二、二
谷口 心美

で	夕	小
い	ぐ	さ
ま	れ	な
す	の	赤
	空	と
	に	ん
	と	ぼ
	ん	が

教養をつけるとは泣面をするこ
ある。ぼろぼろとくやし涙を流す、
とである。高橋義孝のことは、花入
名実、新、辰

新緑の郊外の町を歩き、家並
みもいつか尽きてあたりはすっ
かり村の景色になった。森、中、六、六、日暮

わたしは、星にきょうみがあ
ります。天体望遠鏡で夜空
を見たいです。有象、六、六、三、三
大塚 林鷲

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。書文、四、四、五、五
手島 りのん

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。高、社、四、四、一、一
坂口 心美

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。や、ま、二、二、五、五
宮坂 ひなた

で	夕	小
い	ぐ	さ
ま	れ	な
す	の	赤
	空	と
	に	ん
	と	ぼ
	ん	が

新緑の郊外の町を歩き、家並
みもいつか尽きてあたりはすっ
かり村の景色になった。近藤、味、王

新緑の郊外の町を歩き、家並
みもいつか尽きてあたりはすっ
かり村の景色になった。早川、実、祐

わたしは、星にきょうみがあ
ります。天体望遠鏡で夜空
を見たいです。有、六、六、六、六、六
松澤 里実

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。有、五、五、五、五、五
小池 志奈

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。有、三、三、三、三、三
北府 岩崎 真緒

お寺から北へ向かって歩
いて行くと、大きな湖が
見えてきます。有、三、三、三、三、三
書之 河野 蒼士

で	夕	小
い	ぐ	さ
ま	れ	な
す	の	赤
	空	と
	に	ん
	と	ぼ
	ん	が

- (硬筆)
- 【一般】信大 荻原 梓虹、若竹 相原 憧光、名東 高須 亮太
 - 【中学】名東 近藤 咲季、光丘 古賀 圭悟、皓花 小田 悠愛、若松 安陪 日彩、りん 早川 実桜、玄黙 染谷 莉奈
 - 【小五・六】八潮 古内 亜香里、有象 大塚 柊鷲
 - 【小一・二】志摩 谷口 美咲、練馬 宮坂 ひなた、霞墨 嶋田 千咲緒、山愛 浅賀 衣富、大田 高橋 凛
 - 【三・四】有穂 川久保 美怜、北府 岩崎 真緒、若竹 手島 璃音、華雪 小池 志奈、若竹 櫻田 うた、一絵 梅田 ことね、高社 坂口 心美、書之 河野 蒼士
 - 【五・六・七】倭 松澤 里実、有穂 川久保 美怜、北府 岩崎 真緒、北府 岩崎 真緒、北府 岩崎 真緒、北府 岩崎 真緒

Table with multiple rows and columns containing names, numbers, and symbols. The text is dense and appears to be a list of entries for a publication, possibly a yearbook or a collection of works. The entries are organized in a grid-like structure with various symbols and numbers interspersed among the names.

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

2 5	準特 6 5 3	二準準準特 4 準	特	2 準	6 5 4 4 5 5 3 準	4 3 1	準	準三準五	準七準特	準	二準準	五準七	2 準準四	8																												
級段	八侍級級級	段四五六侍級二	侍	級	四下中中上上上初下下	六段五	段	六段五	八段八侍	瑞	二準準	段段三	段段八	2 準準四																												
	級段	段四五六侍級二	侍	級	四下中中上上上初下下	六段五	段	六段五	八段八侍	瑞	二準準	段段三	段段八	2 準準四																												
奥藤杉柳後西北山石北系篠和小山成柳	大津	松大坪	森吉	岩水	稲高	大坪	大津	早吉	長稲	大津	安筆	伊筆	野野	橋岡	河	支	濱倉	濱加	支	西																						
湖悠知延雅友準慎銀の尙雷琴雷利昂	橋秋	久隅	井理	田野	元橋	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井																						
7	準	特	8	7	7	7	6	5	3	7	6	6	5	3	4	1	準準三	1	1	5	準七準特	8	準	7	8	7	7	6	6	4	初	二準	5	2	二	四準	2	準六準	4	3		
齋岡三安嶋信	濱上	高磯	磯万駒	清山	樋和駒	向万	江松	正出	鈴中	濱中	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
江野山池野小宮鶴野小池江小塚鶴	河安成	河吉	櫻安	関三	成高	中嶋	吉川	阿菊	中才	宿竹	佐竹	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大		
6	6	4	3	2	2	3	2	準四準	8	3	4	準準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準	準準		
岡鈴井柚白梨高野木中八田高庄岡中	中宮	平石	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高		
初準三六	三四	五準準特	準	5	4	7	8	2	3	1	特準	1	準準準	四五準	8	3	特	8	2	2	特	初準準	五準	4	特	8	3	3														
岩佐吉須鈴千針鈴須飯高筆	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤			
8	1	3	3	準準準	準四準準	準準特	9	特	3	6	特	4	準準準	準準特	1	7	7	6	4	2	1	2	準	5	準	8	8	8	3	3	2	7	3	4	2							
中藤北中渡原松三鈴古坂藤三上服竹	雨	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿	阿				
5	4	4	3	2	5	4	3	特	準初3	三	準準準	準四準	準五	準六	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七	準七			
松藤村谷小田上梅篠伊安高繩新小砂	市	浅湯	清村	柿藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤	藤藤			
5	6	8	4	8	7	7	7	5	4	2	5	特準	四特準	四五六特	8	6	8	7	6	5	4	1	初準準	8	6	8	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7				
岸藤藤村中井丸小中松金春中黒近岡	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松			
準8	6	2	準四	7	4	準準	準三	7	準特	3	準	6	5	3	8	4	3	2	2	2	2	3	特準	四	準	1	特準	5	1	準三準準	準六	特	8	3	準	準	準	準				
奥若竹愛三小飯岸前山鈴古飯三山	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松	松			
6	特	8	特	三準準特	1	5	4	6	6	4	準	三	7	2	準準準	準五準六準七	準特	特	8	6	準準	8	8	4	3	準準	8	8	5	3	1	特										
宇高宮小筆矢筆長矢岩高美田筆	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川				
1	1	準5	3	2	特準初準	三	6	3	1	準四準	五	六	七	準	四	五	準	特	1	初三	6	5	1	特	6	4	4	3	2	準1	準四準準	準	特	1	初三	6	5	1				
上清寺藤田小國東原高吉塩外樋倉小	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中	中				
準	二準五	準二準三	準四	五	7	1	初準	準四	準五	準六	準七	準七	準特	初	5	2	5	2	2	四六準	8	3	7	6	5	7	6	5														
後三高山吉平相金石工岩金	与坂	每	奥	松	石	津	福	三	松	原	田	野	西	保	宮	井	田	原	保	宮	井	田	原	保	宮	井	田	原	保	宮	井	田	原	保	宮	井	田	原	保			
3	6	準四	準準五	準三準七	4	五準準	特準特	8	5	6	7	5	2	準四	六	準	8	7	8	7	6	6	4	6	準	6	6	2	2	1	1	特準	8	6	1	特準						
飯諸西藤土市三塩八柳葉吉諸藤山土	大	西	市	佐	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支	支				

松聲・知床・新城・瑞祥・杉・須坂・鈴鹿・青雲・正桂・成城・静翠・石峯・泉華・仙台・蒼穹・大家会・たけのこ・竹華・千曲・茅野・中央・月・土筆・江楓・照澤・中野・渚・練馬・柏心

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

柏心・連田・葉月・晴美・半田・光ヶ丘・聖・心まわり・富貴・富士見・船橋・書会・芙蓉第三・芙蓉第五・平成・宝春・房風会・星・前原・松台・三池・水・美苑・美那・漆・みな野・峰・宮川・宮地・雅・御代田・名東・めぐみ・杜の会・八潮

Table with multiple rows and columns of text, including names, numbers, and symbols. The text is organized in a grid-like structure, likely representing a schedule or a list of events. The content includes names like '丸山', '鈴木', '青木', etc., and numbers like '4特', '準7', '8', '1', '準5', etc. Symbols like '☆', '○', '◇', '△' are used to denote specific categories or statuses.

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段目で二回とると昇段する。ただし師範部は除く。)

Table with multiple rows and columns containing names, grades, and other identifiers. The table is organized into several sections, with names and grades listed in a structured manner. Some names are circled or have other markings. The table includes a wide variety of names and their corresponding grade levels.

注意 1. バーコード出品券と作品の段級位の不一致にご注意下さい。
2. バーコード出品券には必ず〇印と段級位等を、作品には段級位、名前を書いて下さい。
3. バーコード出品券の種別（臨規や仮規等）の〇印の誤りに、ご注意ください。
※上記の誤りがあった場合、正しい登録名列の各段級位の最後列にお名前が入っています。

支部別の発表です。個人出品は「その他」として巻末にあります。

第36回読売書法展 —本格的輝き—

東京展	《第1会場》国立新美術館（東京・六本木）※27日(休) 休館	8月23日(金)～9月1日(日)
	《第2会場》東京都美術館(東京・上野)	8月23日(金)～8月29日(日)
	【区分】茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・新潟・富山・石川・山梨・長野・静岡の各都県と海外在住者	
関西展	《会場》京都市勧業館「みやこめっせ」(京都市・岡崎公園)	9月11日(水)～15日(日)
	【区分】福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の各府県	
中国展	《会場》広島県立ふくやま産業交流館「ビッグ・ローズ」(福山市御幸町)	9月27日(金)～29日(日)
	【区分】鳥取・島根・岡山・広島の各県	
四国展	《会場》サンメッセ香川（高松市林町）	10月18日(金)～20日(日)
	【区分】徳島・香川・愛媛・高知の各県	
東北展	《第1会場》山形美術館（山形市大手町）	10月30日(水)～11月3日(日・祝)
	《第2会場》山形県芸文美術館（山形市七日町）	
	【区分】青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の各県	
北海道展	《会場》札幌市民ギャラリー（札幌市中央区）	11月20日(水)～24日(日)
	【区分】北海道	
中部展	《第1会場》愛知県美術館ギャラリー（名古屋市・栄）	11月27日(水)～12月1日(日)
	《第2会場》愛知県産業労働センター「ウインクあいち」(名古屋市・名駅)	
	【区分】岐阜・愛知・三重の各県	
九州展	《会場》福岡国際センター（福岡市博多区）	12月6(金)～8日(日)
	【区分】山口・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄の各県	

書象会便り

◆第36回読売書法展審査結果発表

七月二十五日、東京サンシャインシティでの審査員・審査部委員合同総会から約一週間、標記審査が行われました。本会からは、特別賞選考委員山澤静山先生、当番審査員として杉山曉雲先生、鈴木春鳳先生、山口啓山先生が大役を果たされ、多数の人賞、入選者を得ることができました。該当の皆様には心よりお祝い申し上げます。速報として入賞・入選者一覧を本紙26・27頁に掲載いたしました。

◆読売書法展表彰式・祝賀懇親会

標記の表彰式・祝賀懇親会が、八月二十四日(土)十二時よりザ・プリンスパークタワー東京で開催されます。中央表彰式と東京展表彰式の後、祝賀懇親会が予定されています。奮ってご参加下さい。

◆読売書法展東京展関連イベント

席上揮毫・篆刻会が八月二十五日(日)午後一時～三時、東京展実行委員(常任理事)によるギャラリートークが八月二十三日(金)、二十六日(月)、二十八日(水)～九月一日(日)に行われます。(以上国立新美術館) 東京都美術館のギャラリートークは八月二十三日(金)、二十六日(月)～二十九日(木)に行われます。本会からは、市澤静山先生が左記の通りギャラリートークをされます。皆さんご参加下さい。

△ギャラリートーク：市澤静山先生▽

日時 八月三十日(金) 午後一時～三時
会場 国立新美術館 一A展示室

氏名	発行人 (有) 書象
	代表 上 條 節 夫
	東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三六
	郵便番号180-0001 電話〇四二(五三)九七四三
	振替口座 〇〇一九〇一七二二五六九一
	振替名義 (有) 書象
	印刷所 株式会社 リンクス